

整理番号	意見（〔〕内は事務局補足）	事務局の考え	技術分科会資料との対応
1	宮崎海岸の内陸部の農業地帯への影響は今後どう考えますか？ 〔台風による塩害、侵食が進むことによる農地への塩害などが生じる可能性があるため、国交省の所管ではないかもしれないが、一括して対応策を考えてほしい。〕	□侵食対策を行うことが、塩害対策にもつながっていくことを含めて、侵食対策を進めていきたいと考えています。	—
2	この写真は海岸侵食がだいぶ進んでから しかも波ろうで波の高い時 〔昔は砂浜は200mあった。〕	□昭和60年時点の写真にはすでに緩傾斜護岸があるため、すでに侵食の傾向は現れていたと思っており、そのような認識を持って検討を進めています。	—
3	波消ブロックが露出（住吉海岸）している箇所は戻りが多い傾向がある 〔※戻り=カメが産卵せずに産み戻ること〕	□今回の侵食対策の目指すところは、消波ブロックの設置ではなく、砂浜の回復・維持であり、アカウミガメの上陸・産卵にも配慮した形で進めていきます。	—
4	専門家、市民の連けいの意味はあるのか。無名市民に責任はとれない。市民には専門知識なくその場の気分やふんいきで同意することもあり	□専門家の方の考え方を市民に知って貰う、逆に、地元の方々の情報や市民の方々がどのような認識を持っておられるかということも専門家に知ってもらうという意味で、市民と専門家が連携することは重要であると思っています。	—
5	いつも全体的な話の談義ですが、もう少しテーマを絞った談義所は開かれますか	□談義所のテーマについては、これまでその時々で重要と考えるテーマをもとに進めてきましたが、結果的に全体的な話が続いたのがこれまでの談義所でした。 □第12回談義所では具体的な侵食対策を提示するという点で、具体的な談義を進められると考えています。	—
6	H19年～現在までの調査・検討・対策の費用総額は	□測量、波浪観測、環境調査、検討、試験養浜を実施し、平成19年から平成22年までで約17億円です。	—
7	漁師の方からの要望はどんなものがありましたか	□漁業者からのご意見は、魚類等の調査をきちんと行って欲しいということ、漁業の支障になりそうな対策は避けてほしいということをお聞きしています。	—
8	コンクリート ヘッドランドなどが不必要なのは自然環境保全の為ではない。一直線の海岸が津波を弱めるから	□東日本大震災の事例収集の結果、突堤やヘッドランドによる津波の集中は見られませんでした。津波対策という意味では、侵食が進行して砂丘の高さが低くなってしまふことの方がより深刻と考えています。 □今回の侵食対策は、津波からの防護が第一義的な目的ではありませんが、侵食対策により海岸砂丘や浜崖を保全することで、少なからず津波にも効果が期待されます。	対策の実施による、津波の遡上等への悪影響の可能性について第6回技術分科会、資料6-5、P5～P6をご参照ください。
9	ダム・保安林・港湾てつきよはそれぞれ別の人の意見 まとめると混同させる	□市民意見については、これまで頂いたご意見等を別途ひとつずつ、発言者も含めて整理しています。ここでは、このようなご意見があったということを総論的に整理して示しています。	—
10	市民の意見は発言者の記名式にしてほしい	□市民の方々から責任ある意見をいただくために、付箋への記名や発表時には、お名前を明示して発言頂いています。	—
11	市民意見のセットバックとは？何	□セットバックは、現在の海岸線位置にこだわらず、その背後にある資産等も含めて移転または撤去させる考え方と理解しています。	—
12	粗めの養浜砂が汀線附近に残りやすい どのような効果をもたらすか	□養浜砂の粒径が大きいと、一般の砂と比較して移動しにくいので、海岸にとどまりやすく、砂浜の維持・回復に効果があると考えています。	粗粒砂について第6回技術分科会、資料6-1、P14をご参照ください。
13	中長期的な取り組みで山～川～海に於る土砂の流れの円滑化とは	□例えば、河川の途中（ダムなどを含む）に堆積している土砂を、下流～海まで流すことを指します。	中長期の対応の考え方について第6回技術分科会、資料6-4、P12～P24および資料6-8をご参照ください。
14	中長期的な取り組みが難しい理由を具体的に説明	□各施設はそれぞれの目的に応じた重要な役割・機能があることから、撤去や改良については関係者の合意形成に時間がかかるほか、撤去や改良自体にも時間がかかります。 □また、流砂系としての山～川～海での取り組みは、各関係機関とも調整しつつ進めていますが、山や川での取り組みが海岸で効果が出るまでには相当な時間がかかると考えています。	中長期の対応の考え方について第6回技術分科会、資料6-4、P12～P24および資料6-8をご参照ください。
15	この量に疑問 昔の航空写真見たのか 台風直げきなくすでに侵食の加速度が減っている可能性	□今回の土砂収支の数字は、ここ20年程度の測量・空中写真による解析の結果得られた数字です。想像されている「昔」とは時期が異なるかもしれません。	土砂収支について第6回技術分科会、資料6-2、P5～P6をご参照ください。
16	土砂収支と侵食対策機能が記載されているが、海岸保全区域はどうなっているのか 〔海岸保全区域と保安林区域等背後地の管轄の関係について、きちんと整理したうえで対策を実施すべき。〕	□行政間で連携し、区域等の管轄等をきちんと整理した上で、対策を実施していきます。	—
17	土砂収支 〔土砂収支のうち、住吉海岸の侵食量の大部分が港湾に溜まっているというのは毎日海に出ている実感と違う。という意図〕	□今回の土砂収支の数字は、ここ20年程度の測量・空中写真による解析の結果得られた数字です。漁業者の方の実感と測量結果で得られた値の違いについては、漁業者の方が船舶で航行する部分と港湾事業で浚渫されている部分より岸に近い浅い場所に砂が溜まっているため、実感と異なるのかなと考えています。	土砂収支について第6回技術分科会、資料6-2、P5～P6をご参照ください。
18	一ツ瀬川河口の堆積土砂は+9万m ³ /年とありますが、川における変化はあるのでしょうか。	□一ツ瀬川については、過去から継続的に測量を実施していないため、詳細は不明ですが、河口部は堆積しており、浚渫が継続されています。	—
19	一ツ瀬川のしゅんせつは何回行われたのか	□ここ10年間で年平均3回実施しており、年間15,000m ³ 程度の浚渫量になります。	—